

施策事例 ① 住民参画・NPO・ボランティア関連施策

萩市花と緑のまちづくり条例

自治体情報

山口県萩市

人口 / 53,589人

標準財政規模 / 20,328百万円

担当課 歴史まちづくり部都市計画課花と緑の推進室

電話番号 直通 0838-25-3644

実施主体 萩市

関連ホームページ http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/detail.html?lif_id=34172

事業期間 平成24年度から

関係施策分類 ④、⑤、⑥

予算関連データ

総事業費：455千円

名称	所管	金額(千円)
保存樹木等補助金	萩市一般財源	100
みどりの街並み推進事業補助金	萩市一般財源	355

施策のポイント

萩市は豊かな自然と歴史が織りなすまちである。市のシンボルである「土堀と夏みかん」や歴史を見守ってきた松の古木など自然景観を守るとともに、つる植物のブロック塀や植樹を奨励し市民の手で緑化を推進していくための条例を制定。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

萩市は、海、山、川の風光明媚な自然をはじめ、江戸時代の毛利36万石の城下町や明治維新胎動の地として往時の歴史や文化が残るまちである。しかしながら、歳月の経過とともに開発が進み、土堀と夏みかんや古い松の景観などが失われていく問題が危惧されている。

花と緑は、市民の健康で文化的な生活環境を創造し、潤いと安らぎのある都市環境の形成に重要な要素であることから、市民と行政が一体となって萩の花と緑を守り、育て、次世代に継承することを目的に「萩市花と緑のまちづくり条例」を制定した。

2. 取組の具体的内容

○公共施設における花と緑の推進

国や地方公共団体が設置し管理する国道や施設の樹木植栽に市の意見が反映されるよう、またコンクリート工作物をつる植物で覆い隠すよう要請することができる。

○民有施設における花と緑の推進

常緑のつる植物によるコンクリート塀等の被覆修景、生垣による緑化、夏みかんや花木による緑化を推進する。それぞれの修景基準に該当する場合は補助金を交付できる。

○花と緑の協定

一定の区域内で土地や建物を所有し管理する場合、花と緑を推進するために協定を締結することができる。

○花と緑の名所づくりの推進

一定の草花や樹木を花と緑の名所として広く周知し、市は必要な支援ができる。

○花と緑の応援隊

花と緑を守る担い手として自主的活動をしようとする市民や事業者は、花と緑の応援隊に登録でき、市はそれを支援できる。

○花と緑の銀行の設置

市民から寄附を受けた樹木等を管理する花と緑の銀行を設置する。寄附樹木は市が公共の場所に必要とするものであり、移植費用は寄附者の負担とする。

○保存樹木等の指定

新たに合併した地域を中心に貴重な樹木等を発掘し、保存樹木等としての指定を進める。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

伝統的建造物群保存地区や景観重点地区における緑景観の確保のためのブロック塀などの緑化や夏みかん植栽による夏みかん景観の確保のための植栽など、城下町としての落ち着いた潤いのある景観を目指す。

4. 現在までの実績・成果

本市では、ふるさと寄附等を活用して緑化整備を行っているが、「萩市花と緑のまちづくり条例」の制定により、本市のまちづくりのビジョンが一層明確となり、市民だけでなく、賛同者を含めた多方面からの支援が期待できる。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

常緑つる植物（オオイタビ）による緑化は、旧中学校の延長175mのブロック塀で植栽実験を実施し、グラウンド内部の下部に開口し植栽した植物を外部に誘引することで人工構造物を自然な景観に仕上がるように工夫をした。

生育途中、雑草として処分されたものもあるが約10年でほぼ全体を被覆し、生垣に比較しても剪定管理が容易であることから補助事業として実施することとした。他にもキツタを活用した被覆も実施中。

6. 今後の課題と展開

つる植物などの緑化の協定を住宅団地等で締結を行ったり、市民の管理技術を高めるため研修を実施し個々のスキルアップを図り、花と緑の応援隊や花と緑の銀行を活用しながら、市民と行政が一体となって緑化推進のまちづくりを行う。